

## 夏休みの学習は、これだ

さて、夏休みが近づいてきました。子どもたちは、既にいろいろな計画を立てているようです。

ご家庭では、夏休みの頭の痛いことの1つに「夏休みの勉強」があるのではないのでしょうか。学年に応じたドリルやプリント、日記や自由研究、図工や作文など多岐にわたっています。それらの課題にどう取り組ませていくか。そう考えただけで気分が重くなってきます。そうすると、「早く宿題をしないとダメでしょ」「どうしてこんな問題もできないの」。こうした否定的な言葉ばかりが出がちです。すると子どもは宿題どころか学習そのものが嫌になってしまいます。こうして悪循環にはまってしまうのです。

心理学に「つり橋効果」という理論があります。男女がデートをする時、つり橋を一緒に渡ると恋愛が成就する確率が高まるのだそうです。一緒に渡ると怖いから心臓がドキドキする。人間の脳はそのドキドキを「この人のことが好きなのかな」と勘違いしてしまうのです。

子どもにとっての学習も同じです。宿題に取り組んだ時に、子どもをたくさんほめてください。ほめられればうれしいものです。本当は、ほめてくれたその言葉がうれしくて楽しく感じるのであり、勉強の中身についての楽しさではないのです。しかし、勉強に関してほめられたので、「勉強って楽しい」と思えるようになるのです。



「でも、そう言われてもほめるところがないんですよ。」という声を聞きます。どうしてもミスが目立ってしまって気になってしまうのです。でも、そこは目をつむって、プラスのことのみを探すのです。「ここの計算は正しくできてるね。」「ここをちゃんとはねて書いたのはよく注意してたんだね。」「正しい書き順で書いてるね」「正しい鉛筆の持ち方ができてるね。」など些細なことでもいいのです。たくさんほめてから、「じゃあ、こっちをちょっと直してみようか」と汚い字を直させる。そういう順番が大事なのです。算数のドリルなら、まず正解を見つけてハナマルをつけ、「式もきちんと書けたね」などと言ってほめる。そのうえで「じゃあこれとこれを直そうか」と言うと子どもは進んでやり直すでしょう。まずは、意欲を持たせる「言葉の工夫」が必要です。

(文責 教頭)